



令和8年度実施計画（事業計画書）

令和8年1月31日

浜松科学館指定管理者
乃村工藝社・SBSプロモーション共同事業体

目次

I 指定管理業務の基本方針	1
1 計画の位置づけ	1
2 使命・将来像・事業目標	2
3 開館40周年事業	3
4 展示更新による新規プログラムと改善点	4
II 科学館事業	5
1 常設展示	5
2 フリーゾーンの体験プログラム	6
3 特別展・企画展	7
4 プラネタリウム	7
5 夜の科学館	10
6 学校等との連携・協力	10
7 関係機関等との連携・協力	11
8 ボランティア活動支援	13
9 調査・研究及び収集・保存、ドキュメンテーション	14
10 パブリックリレーションズ	14
11 リサーチ（調査とその活用）	15
12 DE&I 推進の取り組み	15
13 リニューアル（常設展示更新）	17
III 経営管理	19
1 開館日・開館時間	19
2 利用料金	19
3 年間目標	20
4 管理運営体制	21
5 アテンド・チケットिंग	23
6 施設貸出	23
7 施設維持管理	24
8 安全管理	26
9 収支計画	28
IV 自主事業	29
1 ミュージアムショップ運営	29
2 カフェ運営	30
3 自動販売機の設置管理	30
4 キッチンカーのフードサービス	30
5 「みらいーら みなくるマーケット」の開催	30
6 その他	31

I 指定管理業務の基本方針

1 計画の位置づけ

浜松科学館は、昭和 61 年（1986年）5月1日に開館して以来、今年で40周年を迎えます。令和元年から10 年間のDBO方式（※）によって、常設展示の全面更新やプラネタリウムの機器更新等の施設整備を行い、長期的スキームで運営の変革に取り組んできました。開館当初は青少年の育成を主目的としていましたが、科学館を取り巻く社会状況、地域や時代の変化に対応して、多様な学びのかたちを取り入れながら、幅広い層の利用者の体験や交流に基づく創造的な生涯学習施設を目指しています。

浜松市総合計画に示されている「浜松市未来ビジョン—市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」で、科学館は文化・生涯学習分野の拠点の1つとして創造都市政策推進の一翼を担っています。浜松科学館の独自の価値をより高めるために、職員自ら使命・目標を定め、新たにDE&I推進にも取り組んでいます。本計画書は、指定管理者が作成した第3次中期計画（2025年度～2028年度）に基づき、令和8年度の事業の体系をまとめた実施計画（事業計画）の位置づけとなります。

※浜松科学館の DBO 方式とは、民間事業者に、展示設計（Design）・展示製作施工（Build）・管理運営（Operate）を一括して委ねる公設民営方式です。展示と運営を統合した長期的観点で事業展開を図り、効率性と価値向上を目指して乃村工芸社・SBSプロモーション共同事業体が運営しています。

浜松科学館の計画・評価の体系



2 使命・将来像・事業目標

『浜松科学館 第3次中期計画（4 か年／2025 年度～2028 年度）』に基づき、運営者（指定管理者）として目指すべき 10 年間の使命・ビジョンと 4 年間の事業目標を定めています。

2-1.使命（ミッション）

浜松科学館は、多様な交流を通して人々をつなぎ、地域への誇りと愛着をもとに、創造都市に貢献することを目指します。さらに、科学を楽しみ、安心して学ぶことができ、ひとりひとりの好奇心を育む場として地域に開かれた科学館となります。

2-2.将来像（ビジョン）

自由に楽しみ、「面白そう」があふれる広場（※）

- （1）交流・・・多様な人々が交流できる空間(広場)をつくる
- （2）パートナー・・・地域のさまざまな課題に向かい、それぞれに強みを持つパートナーと共創する
- （3）DE&I・・・「多様性」「公正や個人の尊厳」「多様な幸せ」など人権やウェルビーイングに価値をおく

2-3.事業目標

- （1）学びと交流の場

「面白そう」な広場を目指して、多様な利用者それぞれに向けたコンテンツを内製し、学びと創造性を融合させた交流の場をつくります。

- （2）地域への貢献と共創的パートナーシップ

公共施設として地域に開かれた場となるよう、スタッフが積極的に地域と関わりをもち、さまざまなネットワークを通じて地域価値の向上に貢献します。そのため、さまざまなパートナーとの対話を通して相互理解と目標の共有を図り、新たな体験価値を提案します。

- （3）ファン層に支えられた持続可能な運営

公共施設としての信頼に加えて、登録博物館としての共感と理解によりファン層を厚くして、ボリュームアップとハードリピートによる持続的発展を目指します。また、人事労務環境や研修育成体制を整備して、スタッフの専門性とチームの協力に支えられている人的資本の適正なマネジメントを行います。

※展示更新事業のビジョン

令和8年度は指定管理業務の8年度目となり、これまで蓄積してきた運営経験を最大限活かし、展示更新事業をテコとした新たな学びの場作りに挑戦します。運営者自らが展示更新基本計画を策定し、**＜自由に楽しみ、「面白そう」があふれる広場＞**をビジョンとして、来るべきSociety5.0における教育・人材育成構想に対応し、探究力や意欲をもって主体的に学ぶ力を育むことができる科学館を目指しています。浜松科学館は、あらゆる人に開かれ、それぞれが自由に楽しみ、交流する空間（広場）をつくることで「フィジカルな場としての価値」を生み出していきます。

※『浜松科学館 展示リニューアル 2024/2026 基本計画書』（令和5年8月）

3 開館40周年事業

3-1.事業の方針・目的

浜松科学館は、現在の場所で建設・開館（1986年5月1日）して以来、今年で40周年を迎えます。科学館の前身となる浜松市児童会館は、1962年の開館以来、24年間にわたり延べ250万人が利用し、子どもたちに学びの楽しさとさまざまな思い出を提供してきました。その児童会館が惜しまれつつ閉館（1986年3月31日）したことから、天文と科学の新たな学びと体験の場を求める市民の願いを受けて、浜松市天文台と共に浜松科学館が誕生したという経緯があります。科学館は、市民が求め、市民が培ってきた歴史ある施設という原点に立ち返り、40周年記念事業では、市民の皆様の思いや記憶を収集して再認識を図り、これまで施設が辿ってきた成長・発展の道筋を振り返るとともに、次代の地域文化と創造的な施設の在り方を展望できる事業とします。

年度内に開館40周年を記念した企画を複数展開し、周年事業（アニバーサリーイヤー）として実施します。市民とともにアニバーサリーイヤーを祝い、さまざまな対話や交流の機会を創出し、「浜松科学館」というブランドに対する市民の共感をより一層高めることを目標とします。

- ① 科学館40年の歩みを可視化して再確認し、感謝の思いと歴史を市民と共有します。
 - ・歴史展示・年表・・・関係機関の資料に基づき作成した年表と展示から、街の発展と共に成長してきた歴史をたどる
 - ・思い出展示・・・市民からエピソードや写真、グッズなどを提供してもらい、市民との接点を再確認する
 - ・建築史・・・浜松市公会堂（1927年竣工）から浜松市児童会館への増築改装（1962年）を経て、科学館誕生（1986年）に至る64年以上（公会堂から99年）の通史を再確認し、併せて建築家の中村與資平氏や仙田満氏の業績を顕彰する
- ② 第3次中期計画のビジョン「自由に楽しみ、『おもしろそう』があふれる広場」を起点に、次の50周年につながる発信とします。
 - ・アニバーサリーイヤー・コンテンツの製作、イベントの実施
 - ・記念グッズの製作、キャンペーン等によるPRの推進を強化

3-2.主要事業の予定

(1) 中核事業

- ① 開館40周年記念式典（5月1日実施 みらいーらステージ）
- ② 科学館の歴史をたどる年表・写真・映像資料等の展示（5月1日公開 1階特設コーナー）
- ③ 開館40周年限定デザインの年間パス（4月1日発売 インフォメーション）

(2) 個別事業

- ① 市民参加型の企画・・・思い出展示特設コーナーの設置（市民提供資料、ブルー夢・グリ夢の展示等）
- ② オウンドメディア等を活用した発信
- ③ 開館40周年記念サイエンスショー（5月1日公開）
- ④ 開館40周年記念プラネタリウム番組の制作、過去番組リバイバル、特別投影等
- ⑤ 開館40周年限定商品の製作・販売
- ⑥ アニバーサリー・キャンペーンによる共感の醸成

4 展示更新による新規プログラムと改善点

令和8年度は名誉館長である天野浩博士のコーナーの全面改修を中心に、常設展の構成をストーリーとしてまとめた「展示ストーリーブック」を充実させることで、浜松への興味関心を導き出すとともに、地域の歴史の積み重ねで成り立っている〈文化としての科学〉が感じられる空間を目指します。合わせて動線計画やサインなどのアクセシビリティ向上を図る改修を行い、多様な利用者それぞれが、浜松科学館（ミュージアム）を安心して楽しむことができるように努めます。令和8年度に予定する主な改変点は以下の通りです。

(1)「天野先生の研究室(仮)」の刷新

光ゾーン「ようこそLEDの世界へ」を全面改修します。浜松市出身で、青色LEDの開発に貢献し、2014年にノーベル物理学賞を受賞した天野浩博士の過去から現在までの研究内容と研究者としての人柄を、実物や原理の体験展示、パネルなどを通して触れることのできるコーナーとします。

(2)光ゾーンへの「WAGON」の設置

可動式の実験展示台「WAGON」を、光ゾーンの中央に設けます。光のしくみや原理が体感的に学べる、可変性のあるスペースとなることを目指します。

(3)常設展各ゾーン「シンボル展示」の設置

浜松科学館の常設展は全体を通して「ものづくりのまち・浜松」が生まれた経緯や背景をたどることができる構成となっています。そのストーリーをまとめた冊子「浜松科学館 展示ストーリーブック」と実際の展示空間との結びつきがより感じられるようになることを意図し、ストーリー内の各セクションにおける象徴的な展示「シンボル展示」を常設展各ゾーンに1か所ずつ設けます。

(4)浜松科学館「展示ストーリーブック」の再編集

上記シンボル展示の設置と合わせ、「展示ストーリーブック」自体の再編集も行い、頒布します。第一期・第二期での改修箇所を組み込んだ内容とします。

(5)動線・アクセシビリティの改良

おもに常設展入場ゲート付近の動線の改良を行い、来館者の入場時の不安を軽減するとともに、「有料エリア」「無料エリア」の持つ役割が明確化することを意図します。また、パーテーション等什器の造作により、全体を通して開放性のある、建築のもつ魅力をより感じられる空間構成を目指します。また、主要動線に歩行誘導ソフトマット等を設置し、サインの適正化や建具のコントラストを高めることと併せて、視覚障害者のアクセシビリティの向上を図ります。

(6)サインの改良

第一期から継続して館内のサインを見直すことで、館内の情報が適切に過不足なく取得できる状態を目指します。

(7)ウェブサイト改修

第一期から継続して公式ウェブサイトの改修を行います。ミュージアムにおけるDX化への取り組みとして、アクセシビリティの向上やアーカイブ機能の強化などを行います。

Ⅱ 科学館事業

1 常設展示

浜松科学館の常設展示室には、1 階自然ゾーンから、2 階光ゾーン、音ゾーン、力ゾーン、宇宙ゾーン（一部 3 階）にかけて、100 点以上の展示アイテムが配置されています。自然現象や科学技術の成果をわれわれの五感を通して経験することで、驚きや不思議さ、発見が得られるような科学の視点で製作されたハンズオン型の展示アイテムと、浜松を代表する企業に製作協力いただいた展示で構成されています。

これらの展示がいつでも快適に利用できるよう、日常点検や稼働状況の確認に努め、安全で清潔な空間を提供できるよう、科学の専門スタッフと設備・清掃スタッフ、ボランティアスタッフが管理運営に当たります。

展示室内には中2階のみらいーらステージでのサイエンスショーや、第一期展示更新で設置したみらいーらルームでは、毎日、さまざまな体験プログラムを行っています。また、アクティブ展示解説やボランティアによるオリジナルプログラム、謎解きのコミュニケーションツールなど多彩なメニューを提案し、楽しみ方のバリエーションを豊富に用意しています。さらに、地域の企業や団体と連携して製品や技術、活動を紹介する展示や、独自のノウハウを活用したワークショップの開催なども行い、常設展示室でありながら常に変化し、多くの人が行き交う活気ある空間とします。

(1) 常設展示室の体験プログラム

スタッフが自ら企画・製作（内製）し、気軽に工作や実験を楽しみ、展示を見て体験することに留まらず、「いつ訪れても」「予約なしで」「館内のいろいろな場所で」行われるようにします。保護者と子どもと一緒に参加できるようにして、家庭でもできる実験などを紹介し、家族で体験を共有するきっかけをつくります。

1-1.アクティブ展示解説

「自然」「音」「光」「力」「宇宙」の各ゾーンの特定の展示アイテムで、スタッフが実演を伴いながら創意あふれる展示解説を行うほか、15 分で展示実験（展示アイテムを用いた実験）を行います（不定期で開催）。また、展示ストーリーブックで語られている展示ゾーンの中軸である「綿花」や「浜松の偉人」などの解説をみらいーらステージで実施します。

1-2.サイエンスショー

中2階のみらいーらステージ（約300㎡・70席）でサイエンスショーを行います。楽しさや驚き、ワクワク感の伴うプロセスを重視し、科学とエンジョイメントの融合した独自のプログラムとします。スタッフの個性を生かし、テーマを適宜替えて行います。この数年は感染症対策として開催時間を短縮し1回15分で1日5回実施していましたが、来年度はより充実したサービスを提供するために、1回20～30分で1日4回（①10:45～11:15、②13:00～13:30、③14:30～15:00、④15:30～16:00）に変更して実施します。

1-3.みらいーらルーム

日替わりや隔週替わりで当日参加が可能なプログラムを展開します。従来、午後の時間帯に限られていた参加プログラムを午前中にも拡張し、いつでも気軽に参加し交流できる場を作ります。

- ①午前（10:00～11:30）：「ちょこっと体験」日替わりで、実験道具の設置や、職員、ボランティアによる体験講座を実施します。また、外部講師での開催など特別プログラムも非定期で行います。
- ②午後（13:30～15:30）：「ワークショップ」隔週替わりで、オリジナルの実験・工作キットを用いたプログラムを実施します。

1-4.展示ツアー

展示ストーリーブックの内容に則した展示ツアーです。各ゾーンの展示アイテムを横断的に紹介しながら、「ものづくりのまち」浜松が発展してきた経緯や歴史を説明します。週に一回程度、適宜、行います。

(2) 常設展示室の活用プログラム

来館者が常設展示をより楽しむことができるよう、ガイドやツール、情報システムを用意します。

2-1. 展示ストーリーブック

常設展の背景にある地域の特性（風土や産業史等）と、展示アイテムとの繋がりを、1つのストーリーとして解説しています。展示更新によってさらに内容をアップデートし、冊子やウェブサイトからのダウンロードにより利用者に提供します。

2-2. コミュニケーションツール

子どもと保護者が一緒に展示を体験するためのツールを提供します。ワークブックを用いて、展示の適切な使い方へ誘導しつつ、同伴者とのコミュニケーションを促し、気づきや疑問を引き出すことを狙うものです。館内を謎解きで巡り、毎年好評となっているワークブック『さがしてためてみらいーら』の第5弾を展示室内にて頒布します。

2-3. 団体利用向けワークシート

団体で来館する児童生徒を対象としたワークシートを用意しています。科学館のウェブサイトからダウンロードができます。利用者の声を聴きながら、新たなワークシートの作成、内容の充実を図ります。

2-4. 科学学習情報システムの運用

科学館内での体験の幅を広げるとともに、各個人の体験の記録（ログ）を残すことで科学館を出た後の体験につなげます。

① デジタルデバイスの活用による展示空間での学びの拡張

スマートフォンアプリを使用することで、展示に関連した科学的な事象についてより発展的な情報を得ることができます。また、展示アイテムで作成した写真や音声データを持ち帰る機能をもたせ、振り返りを促します。さらに、科学に関連したクイズにチャレンジできるキオスク端末（ベースステーション）を展示室の5か所で運用します。

② 人工知能を用いた自動会話プログラム「コンパス君」

チャットボット（人工知能を用いた自動会話プログラム）「コンパス君」を運用します。「コンパス君」は、来館者の質問に対して単に答えを返すのではなく、疑問を引き出したり、次の学習行動（別の展示を見る、調べる等）を促したりする役割を担います。

③ 体験履歴の蓄積と、体験ポイントの付与

アプリを用いると体験ポイントが付与されます。利用者の再来館を促すほか、獲得したポイント数に応じてオリジナルグッズや特別体験の機会を提供する特典を設けます。科学館のウェブサイト上からログインできる会員ページでは、館内または帰宅後に、貯めたポイントの照会や体験履歴の確認などができます。アプリはスマートフォンで無料ダウンロードできます。

2-5. ギャラリー

常設展示室内（みらいーらステージ背後）に、第一期展示更新でギャラリー・スペースを新設しました。館内イベント等の関連展示に加えて、地域の関係者と連携した企画で、開かれた展示スペースとして活用しています。

2 フリーゾーンの体験プログラム

スタッフが企画・製作（内製）した体験プログラムを、サイエンスラボやサイエンスライブラリーなどのフリーゾーンで行います。サイエンスラボでは特別な薬品や実験機器を用いて、サイエンスショーや展示とは異なる体験の機会を提供します。各プログラムは、30分～半日程度を想定し、参加者の体験の充実度合いを高めます

① サイエンスラボ、ものづくりラボでのプログラム

科学実験（実験・工作）、自然観察（観察）などのテーマで行います。

② 自然観察会

科学館周辺や浜松市内で、植物、鳥類、昆虫類などの生物を対象に観察会を実施し、生物学、生態学の理解を深めるとともに、浜松の自然を体感する機会をつくります。

③ 大人をターゲットとした体験講座

カフェやサイエンスライブラリー、セミナールームを活用し、大人を対象とした健康講座などを実施します。

3 特別展・企画展

年間を通じて集客を平準化させ、来館者の体験の質を高めることを目指し、特別展及び企画展を年4回、実施します。コンテンツは科学館スタッフが内製することを基本とし、館の常設展や資料等の充実にも繋がります。さまざまな体験によって幅広くテーマを楽しむことができるようにワークショップ等を組み合わせて、主体的な学びの機会を拡張します。

令和8年度は、夏季、春季等の学校休業期間にあわせて、以下のスケジュールで予定します。会場は、ホールをメインとし、セミナールーム等を適宜使用する予定です。

名 称	開催時期	実施内容
夏の特別展 「みらいーら格付けチェック」(仮)	7月中旬 ～8月末	見習い科学者として来場した参加者が「観察・実験・推察」をととした科学的な問題に挑み、一流科学者の称号を目指します。その過程で、科学の目を養います。
秋の企画展 「科学の学園祭 2026」	10月	「自由に研究ラボ」のパネル展示や、近隣の高校、大学、専門学校、学習センター、科学館ボランティアなどによる、自由な科学活動の発表の場を設け、来場者と学生、また学生同士のサイエンスを介した交流の場とします。期間中、学生証提示で常設展入場料を無料とします。
冬の企画展 「みんなで熱中!ものづくり 2026」	12月中旬 ～1月上旬	ものづくりのプロセス（思案・開発・制作・検証・仕上げ等）をコンテスト形式で体験し、ものづくりの面白さ、奥深さを発見する場を提供します。
春の特別展 「40年の科学、そしてその先へ」(仮)	3月下旬 ～5月上旬	開館40周年関連企画です。40年前と現代の「もの」を比較しながら、どのような科学技術の発展によって変化が起きたのかを紹介します。また、地元企業の取材をとおして、現代から未来へどのように発展していくのかを解説します。

4 プラネタリウム

光学式プラネタリウムとデジタル式プラネタリウムの両方の長所を生かしたプログラムの運用を行います。当館の最大の特徴であるスタッフによる星空の生解説（ライブ投映）と番組映像の自主製作（内製）を継続します。すべての方にプラネタリウムを楽しんでいただくため、次ページの表のように時間ごとの投映スタイルを設定しました。環境や気分に合わせて、お好みの投映スタイルをお選びいただきます。

投映スタイル	内 容
わいわい	声が出て大丈夫！みんなで楽しく見よう。
わくわく	解説に耳を傾けよう。会話の時は小声で。
じっくり	じっくり満喫。静かにご覧ください。

4-1.投映スケジュール

平日は一般向けの投映を午後に2回行い、その他は学校を中心とする事前予約団体向けの投映を最大3回行います。土曜・日曜・祝日と学校休業期間は、赤ちゃんを含めた家族向けの「キッズプラネタリウム」と一般向けの「プラネタリウム」とを合わせて1日計5回投映します。

また、高校生以上の成人を対象に、毎月1回、『夜の科学館』の際に夜間投映を行います。

回	平 日	土曜日・日曜日・祝日・学校休業期間②
1	10:30～11:15(事前予約団体)	10:30～11:10 30分プラネタリウム(わくわく)
2	11:30～12:15(事前予約団体)	11:30～12:05 キッズプラネタリウム(わいわい)
3	13:00～13:45(事前予約団体)	13:00～13:55 プラネタリウム(わくわく)
4	14:20～15:15 プラネタリウム(わくわく)	14:20～14:55 キッズプラネタリウム(わいわい)
5	15:40～16:20 30分プラネタリウム(じっくり)	15:40～16:35 プラネタリウム(じっくり)
6	夜の科学館(毎月第4土曜日。時間・内容等未定)	

※利用者の状況や季節によって投映スケジュールを適宜入れ替える予定です。

4-2.投映番組（プラネタリウム）

当日の星空解説と、テーマ解説の2部構成で投映します。テーマ解説では天文や宇宙に関する話題をスタッフが内製する映像を交えて紹介します。

時 期（日程は変更になる場合があります）	内 容
2025年12月26日～2026年5月31日	「天竜浜名湖鉄道 星空紀行」 天浜線の車窓や沿線の星空を紹介する。旅行気分も味わえる作品。
2026年6月2日～7月12日	「七夕」 織姫星と彦星のを見つけ方や七夕伝説などを紹介（リメイク作品）
7月14日～8月31日	「未定」 夏休みに合わせたファミリーで楽しめる番組とする
9月1日～10月末（未定）	「月」
11月～12月25日	「星降るクリスマス」 “クリスマスの星”などについて解説（再投映）
12月26日～（未定）	「未定」

4-3.事前予約団体（学習利用）を対象とした投映

対象年齢等に応じた、きめ細やかなプログラムを用意します。小学校４年生向けの理科学習番組を更新（新規制作）し、利用促進を図ります。また、「やさしい日本語」を使用した解説など、多様な利用者に対応した投映を行います。

種 類	内 容
スタンダード （全学年共通）	「浜松の星空解説+太陽系惑星旅行」 どなたでも楽しみながら宇宙への興味をかきたてられるスタンダードプログラム
理科学習 （小学４年生向け）	「浜松の星空解説+学習指導要領の内容+太陽系惑星旅行」 ４年生の理科の授業カリキュラム（夏と冬の星座、星の動き、星の色の違い、月の動き、月の形）に合わせた理科学習投映
理科学習 （小学６年生向け）	「浜松の星空解説+学習指導要領の内容+太陽系惑星旅行」 ６年生の理科の授業カリキュラム（月の表面、満ち欠け）に合わせた理科学習投映
理科学習 （中学生以上向け）	「浜松の星空解説+番組『太陽～私たちの母なる星～』」 星空解説と ESO(ヨーロッパ南天天文台)制作の太陽に関するオート番組を組み合わせた学習要素が強いプログラム

4-4.プラネタリウムイベント

プラネタリウムドームを活用したイベント等を開催します。

時 期	内 容
夏	プラネタリウム投影機、バックヤードを紹介するイベント（仮）
11月23日	「プラ寝たリウムイベント」 満天の星空の下で心地よく眠りに落ちるような投映を経験していただきます
冬	「ほし×こえ」 星や宇宙をコンセプトに有名声優による朗読会を開催します（自主事業）
DE&Iプログラム	「だれにでも」プラネタリウムを楽しんで頂けるよう、赤ちゃん連れの親子を対象としたプラネタリウムや、やさしい日本語で行うプラネタリウムを年数回実施します。
その他、プラネタリウムやドーム環境、ホワイエを活かした事業を随時、開催予定	

4-5.ドーム管理業務

ホワイエやプラネタリウムドームで、プラネタリウム観覧者の誘導、案内、安全管理を行います。

業 務	内 容
チケット確認	・プラネタリウム観覧券の確認、観覧者対応
ドーム管理、誘導案内	・座席への誘導および出口への誘導、非常時の際の避難誘導

5 夜の科学館

高校生以上の大人を対象とし、全館を使った事業を行います。月1回、主に第4土曜日の夜に、大人向けのプラネタリウムやサイエンスショー、特別コンテンツなどを提供します。ミュージアムショップやカフェもオープンし、週末の夜を科学館でゆっくり過ごしてもらえるような企画とします。

6 学校等との連携・協力

学校・幼稚園・保育園等の団体が利用しやすい環境の整備に努め、科学館の特徴を活かした効果的な学習の機会を提供します。浜松市教育研究会理科研究部等との協力関係を堅持し、「科学的に調べる能力と態度」や「科学的な見方・考え方を養う」という共通の目的をもって連携・協働を進めます。

6-1. 学校等の団体利用を推進

団体向け学習プログラムの実施と利用の働きかけを行います。

- 展示見学やサイエンスショー・理科学習投映等のプログラムを、団体側が選択できるようにします。
- 「学習利用ガイドブック」を学校に配布し、ウェブサイトでも公開します。
- 校長会等に出向き、科学館を利用した学習活動について説明します。

6-2. 学習利用にあたっての教員との連携・協力

- 科学館を利用する教員の相談や下見に対応し、学習効果の高い授業の実施を支援します。
- 学習のための教材の貸し出しを行います（天竜川岩石標本、リバージオモデル等）。
- 8月には「教員のための博物館の日」を開催します。学校の先生に「博物館に親しみを持ってもらうこと」、「博物館の学習資源を知ってもらうこと」を目的として全国的なイベントで、登録博物館となった浜松科学館の学習利用価値を近隣の教職員へ向けて発信します。

6-3. 出張プログラムの実施

さまざまな事情で、普段、科学館を利用しにくい学校や教育機関を対象としたスタッフの出張プログラムです。院内学級、特別支援学校、外国人学校等を対象に、学校の要望やカリキュラムに合わせて、ともにプログラムを組み立てて実施し、より多くの市民へ科学に親しむ機会を創出します。

6-4. 課外活動や自由研究に関する作品展、相談等の実施

小学校や中学校、高校の児童・生徒の課外活動や自由研究等に関し、科学館ならではの専門性や資源により支援します。中学生や高校生が積極的に科学館を利用することで接点を増やし、地域での存在価値を高めます。

6-5. 科学の学園祭

秋の企画展として「科学の学園祭 2026」を実施します。近隣の学校等の生徒・学生たちやボランティアが日々の部活動、課外活動等で取り組んでいることの成果を、ワークショップ、サイエンスショー、ポスター等で表現してもらい、来館者や、生徒・学生同士、ジュニアボランティアとの交流が生まれる場を提供します。

6-6. 理科の自由研究「みらいーら自由に研究ラボ」

電子顕微鏡や生物顕微鏡等、科学館の設備の貸し出しや来館者を対象としたモニタリング、科学館スタッフとの対話をととして、浜松市内の小・中学生の科学的な探究心を支援します。さらに、科学の学園祭にて研究成果の発表を行い、優秀作品を表彰します。

6-7.浜松市小・中学生理科研究作品展

浜松市教育研究会理科研究部と共催し、理科自由研究の優秀作品を展示します。

6-8.理科自由研究等の相談

夏休み期間中に、児童・生徒の自由研究や発明くふう作品に関する相談を随時受け付けます。

6-9.学校等における研修、実習への対応

- ・浜松市及び近隣市町の小・中学校の依頼に応じ、新規採用教職員及び在職 10 年程度の教職員を対象とした社会教育施設研修を実施します。
- ・中学生の職場体験を受け入れ、科学館の社会的役割や仕事の意義を生徒に伝えます。
- ・大学の博物館・社会教育施設実習を受け入れ、実習生向けのプログラムを実施します。
- ・大学の講義やゼミ等を支援します。
- ・企業や団体が実施する人材育成研修にも対応します。

7 関係機関等との連携、協力

7-1.市内の関係機関等との連携、協力

① 浜松市小・中学生発明くふうコンテスト

浜松経済クラブとの共催で、浜松市内の小・中学生を対象とした発明くふうコンテストを行い、優秀作品を顕彰します。展示では、自身の作品を紹介する動画も公開します。

② 教育団体との連携事業

トップガン教育システム協議会、浜松ユネスコ協会学校委員会、浜松国際交流協会など市内の教育関連団体が実施する事業に協力し、会場の提供を行います。

主催団体	内容（時期はいずれも予定）
トップガン教育システム協議会	・第 11 回 小・中学生理科研究プレゼンテーションコンテスト 10 月 25 日（日） ・第 14 回 MATH やらまいか決勝大会 12 月 5 日（土）
浜松ユネスコ協会学校委員会	ユネスコ活動に関する法律（昭和 27 年法律第 207 号）に定められたユネスコ活動として、教育・科学・文化の発展を通して人間性の理解と連帯を目指す民間機関（浜松ユネスコ協会）が市の委託を受けて行う事業に協力する。 ・ユネスコ科学教室・・・通年（詳細な時期は未定）
浜松国際交流協会（HICE）	浜松国際交流協会（HICE）が運営する、浜松市在住の外国人住民向け日本語学習支援プログラムの一つで、主に小・中学生に向けたコースを提供している。 ・次世代のための日本語教室・・・通年（詳細な時期は未定）

③ 浜松市天文台との連携

毎月の星空案内の共同発行を継続します。また、年に 3 回程度、天文台（ボランティア）と協働で天体観望会を実施します。

③ 近隣大学との連携

静岡大学や静岡文化芸術大学、浜松学院大学などとの連携・協働プログラムを実施します。

7-2.企業・団体等との連携

① 各催しにおける連携、協力

地元の企業等と連携してワークショップなどの催しを展開します。

② 「やらまいかテクノロジーコーナー」の設置と地元企業の技術の発信

浜松のものづくり技術を紹介する「やらまいかテクノロジーコーナー」を設置します。令和8年度は、新たに湖西市と連携し、(株)デンソー、(株)GSユアサエナジーなど湖西市のものづくり企業5社が出展する予定です。

③ 地元企業・団体を対象にサポーター会員を募り、科学館事業の充実を図ります。

- ・ 浜松発明研究会など地元団体の成果物の展示会を開催します。
- ・ ファブラボ浜松を中心とした地元メーカー、個人と協力して、地域のさまざまな方々が物作りを通じて交流し、楽しむ「Hamamatsu Micro Maker Faire（ハママツマイクロメイカーフェア）」を実施します。

7-3.ミュージアムや研究機関等との連携

- ・ 代表企業が運営する科学館や、地域の博物館、その他全国のミュージアムと連携し、コンテンツの開発や共有を図ります。
- ・ 科学に関連した研究機関と連携し、専門性の高い知見に来館者が触れる機会を創出します。
- ・ 学校の博物館（科学館）利用を促進する「教員のための博物館の日」（文部科学省後援）を実施します。
- ・ 全国科学館連携協議会・東海ブロックの幹事館として、他館との連携や研修会を運営します。
- ・ 「浜松サイエンスショーフェスティバル2027」を主催し、全国のサイエンスショー実務者の交流とスキルアップを図ります。
開催日：2027年2月7日(日)、8日(月)

7-4.地域の集客施設や公共施設との連携

移動科学館として、展示やサイエンスショー、ワークショップ、プラネタリウム、ショップなどの科学館の魅力に触れてもらう機会を作り、市民が集まる商業施設や、中山間地域にスタッフが出向いてプログラムを実施します。特に科学館へのアクセスが課題となっている中山間地域の協働センター等で各種プログラムを展開し、浜松科学館の事業の一部を住民に体験してもらう試みに着手します（今年度新規事業）。

- ・ 事業名(仮) 出張！浜松科学館（浜松科学館アウトリーチ事業）
- ・ 愛称／広報呼称(仮) おでかけみらいーら
- ・ 展示、サイエンスショー、ワークショップ、プラネタリウム体験、ミュージアムショップなど、浜松科学館が持つ多様な魅力を“体験できる形”で外部に届けることで、来館機会の創出と地域への波及を目指します。

① 商業施設でのアウトリーチ展開

- ・ 百貨店やショッピングモールなど、賑わいのある商業施設で、期間限定の展示や体験イベントを実施します。
- ・ 科学館の展示・実験・ワークショップ等を通じて、「科学館で何が体験できるのか」を直感的に伝え、来館動機の喚起につなげます。

② 駅周辺エリアとの連携企画

- ・ アクトシティや駅周辺施設と連携し、スタンプラリーや回遊型イベントを企画・実施します。浜松科学館を起点・終点の一つとして組み込むことで、駅周辺エリア全体の回遊性向上やにぎわい創出に寄与することを目指します。

③ 中山間地域での移動科学館事業（新規）

- 科学館へのアクセスが課題となる中山間地域において、協働センター等の公共施設へスタッフが外向き、サイエンスショーやワークショップなどのプログラムを実施します。浜松科学館の事業の一部を地域に直接届ける試みとして、これまで来館が難しかった住民の方々にも科学体験の機会を提供し、地域との新たな接点づくりに取り組みます。

7-5.旅行会社等との連携（販路拡大）

- 浜松ツーリズムビューローと協業し、潜在顧客にリーチできる施策を検討します。
- 観光ツアーパッケージの共同開発を行い、旅行者にとってのユニークな体験を創出します。
- インバウンド需要への対応を行い、海外旅行者をターゲットにした施策を検討します。

7-6.他のイベントとの連携による賑わい創出

- サイエンスパークでのイベント開催や、中心市街地のイベントとの連携では、屋外を活用した取り組みにより、オープンな形で地域に賑わいを生み出します。
- 地域の集客施設や公共施設との連携では、「移動科学館」という考え方のもと、科学館の機能そのものを館外へ持ち出す取り組みを展開します。

8 ボランティア活動支援

浜松科学館の運営パートナーとして、市民ボランティアの活動を支援します。前年度からの継続希望者に加えて、新たに一般ボランティア（大人）とジュニアボランティア（中学生・高校生）を募集します。

8-1.ボランティア活動支援の方針

ボランティアが来館者の学びをサポートすることを通じて、地域社会に貢献できる場を提供します。また、ボランティアの主体性を尊重し、さまざまな活動機会をコーディネートします。工作、ワークショップ、展示解説、自主企画・運営イベント、樹木管理、利用案内等のさまざまな分野のスキルやモチベーションを活かせる場を共につくり上げ、幅広く市民を受け入れるとともに、一般ボランティアを中心に自律した運営体制をつくる準備を進めます。

8-2. ボランティア活動の場の提供

各チームがボランティアの活動を支援する体制を整え、来館者とのコミュニケーションや展示解説、ワークショップの運営など、科学館全体で幅広い活動の場づくりに努めます。

8-3. ボランティア研修、交流会の実施

基礎研修、安全管理研修に加え、ボランティア自身が活動の幅を広げられるよう、他館視察や職員の専門性を活かした「サイエンスコミュニケーション講座」、「やさしい日本語講座」などを実施し、地域の特性を知り、科学に関する学びを深める機会を設けます。また、ボランティア同士の交流を深めるため、秋の企画展「科学の学園祭」でのジュニアボランティアブースの出展や「Mite Mite Day」、ボランティア交流会を実施します。

8-4. ボランティアの募集

「広報はままつ」及び科学館ウェブサイトへの記事掲出等によって募集の告知を行います。新規応募者に対しては面談や基礎研修、安全管理研修を実施します。

- 2026年度の日程・・・4月～5月 募集、6月 研修、7月 活動開始

9 調査・研究及び収集・保存、ドキュメンテーション

主に自然観察園をフィールドとし、そこで観察できる生物や科学的な事象に関する調査・研究を行い、オンライン上（note）で紹介していきます。身近な自然に気付く機会や、それらをより深く学ぶためのヒントを提供することが目的です。得られた標本やデータは、展示やミニガイドブックの形で公開します。また、当館が展開するサイエンスショーやアクティブ展示解説などの無形のコンテンツを幅広く共有するために、情報を収集して整理・体系化し、紀要等の刊行物や記録を作ること（ドキュメンテーション）を進めます。

前年度に調査活動に基づいて作成した『浜松の偉人 ミニ折本』を活用したイベントを行います。展示ストーリーブックに登場する浜松の偉人たちの功績と地域の産業の発展を紹介します。

10 パブリックリレーションズ

情報アクセシビリティを意識した適切かつタイムリーな発信や、利用者（ステークホルダー）へのリサーチ・協働を通して浜松科学館が地域に持続的に親しまれ、利用される良好な関係の構築に努めます。また、メディアリレーションにより、さまざまな媒体や外部展覧をととした浜松科学館の広い周知を図ります。

10-1.紙媒体の活用

事 項	内 容
ニューズレター「COMPASS」	科学館の事業の全体的な広報を行う。市内及び周辺市町の小学校、公共施設等へ配布します。（年5回発行）
星空案内	浜松市天文台と共同発行し、市内の各所で配布（配架）します。（毎月発行）
リーフレット	施設案内のためのリーフレットを制作し、来館者を中心に配布（配架）します。（不定期作成）
ポスター、フライヤー	科学館の主要事業の集客のための広報をタイムリーに行う。
企画展等の図録	一部企画展、特別展等に関して図録にまとめ、配布または販売します。
紀要	科学館独自の事業や事例報告を冊子にまとめ、博物館施設や関係機関等に頒布します。（年1回発行）

10-2.ウェブ媒体の活用

事 項	内 容
公式ウェブサイト	タイムリーにコンテンツを更新し、来館意欲のわくような、わかりやすい情報発信を行うとともに、利用者の利便性の向上を図ります。
公式 SNS アカウント	X(旧Twitter)、Facebook、Instagram、note の公式アカウントを通じて情報を発信します。
公式YouTubeチャンネル	公式YouTubeチャンネルを活用し、科学に関連する情報、科学館の案内などを発信します。
公式スマートフォンアプリ	公式アプリ「コンパス」を用いて、アプリの利用者にお知らせを発信します。

10-3.行政の媒体の活用

事 項	内 容
浜松市広報紙「広報はままつ」	浜松市の広報紙への記事掲載のために、遅滞なく科学館の最新情報を市へ提供します。
浜松市教育委員会・統合型校務支援システム	浜松市教育委員会の統合型校務支援システムを活用し、小中学校の関係者向けに情報発信します。

10-4.メディアリレーション

事 項	内 容
メディア連携	指定管理者の構成企業である SBS グループと連携した情報発信や広告掲出を行います。
パブリシティ	各メディアに対して科学館の最新情報を配信し、取材の働きかけを行ってメディア露出を増やします。

11 リサーチ（調査とその活用）

利用者および地域の要望を知るため、以下の調査を実施します。

11-1.来館者アンケート

来館者に直接声を掛け、質問票（用紙・タブレット）を使用した利用者調査を実施します。回答は四半期ごとに集計・分析をして今後の事業運営や業務改善等の参考にします。また、年齢による回答をより明確化するため、主に小学生の利用者を対象とした「こどもアンケート」を実施します。

11-2.未利用者アンケート・市民モニター会

浜松科学館を利用したことがない人に向けたアンケート・インタビュー調査や市民を対象としたモニター会を開催します。多様な要望等を知り、「さまざまな人が利用できる」科学館を考えるための参考とします。

12 DE&I推進の取り組み

浜松科学館のアクセシビリティの向上を目指し、さまざまな人が利用しやすい科学館をめざします。また、アクセシビリティについて職員が学ぶ機会を設け、DE&I（※）への一層の理解と推進に取り組むとともに、誰もが科学館を楽しむ権利を保障します。

12-1.DE&Iポリシーの周知

あらゆる人に開かれ、安心して集い、つながり、学び合う空間（場）をつくるために、策定したDE&Iポリシーを館内職員で共有し、DE&Iポリシーに根差した運営、事業企画・運用を行います。（内容は次ページ参照）

12-2.アクセシビリティに関する窓口の設置とリサーチ

科学館のアクセシビリティについて相談できる窓口（団体利用はアテンダントチーム）を設置し、利用者の困りごとを対話によって解決（「合理的配慮」による調整）することで、利用に関する障壁を取り除く体制を作ります。また、地域の「科学館から遠い人たち」の現状や科学館利用についてのヒアリング・リサーチを実施し、関係機関・団体とつながりをつくるとともに、科学館利用に対する要望や要請にどうすれば対応できるかを、ともに検討します。（字幕・やさしい日本語での解説、点字ブロック・誘導ライン、視覚障害者利用者支援等）

12-3.職員・ボランティア向けの研修実施

地域関係団体やリドユーザーの協力を得て、施設を管理運営する職員やボランティア向けの研修を実施します。先進的な取り組みをしている他館を視察して知見を得るとともに、館内ガイド支援スタッフの育成や館内アクセシビリティの改善に努めます。

12-4.事業における取り組み

12-2におけるヒアリングなどを通して、科学館にアクセスしづらい人たちを対象としたアウトリーチ（出張プログラム等）や館内イベントを実施し、直接的かつ効果的にリーチすることで、新たな利用者の創出や補助教材の開発につなげます。また、各事業実施において、サポート窓口（問い合わせ先）を明示し、イベント参加に係る困りごとに対応する体制を作ります。プラネタリウムでは、赤ちゃんをつれた親子を対象としたプログラムや、やさしい日本語での投映などを年に数回、実施します。

12-5.関係団体とのパートナーシップ

多様な背景をもつ市民を支援している関係者、団体と連携・協働することで、広く社会変化を促す事業や取り組みにつなげます。

12-6.情報アクセシビリティの向上

科学館で発行・発信する媒体やウェブサイト等において、情報取得における障壁をなくすことを目指します。

※Diversity, Equity & Inclusion（DE&I）とは、多様な文化や価値観、考え方を尊重するダイバーシティ（多様性）を基本として、一人ひとりが受容され居場所があると感じられるインクルーシブ（包摂）な場作りを進め、地域社会が直面している課題に対し、ともに乗り越えられるよう支援するエクイティ（公平性）を目指す活動のこと。

（資料）

浜松科学館 DE&Iポリシー

社会環境が急速に変化し、価値観の多様化が進む現代において、さまざまな背景をもつ市民の創造性を科学の視点で地域づくりに生かす幅広い取組みの拠点としての役割を果たすため、DE&Iポリシーを定め、運営・事業に生かします。

- 1 誰もが公平にアクセスできるように、物理的な環境の整備やサポートを行うとともに、対話を通じた調整、変更を柔軟に行います（アクセシビリティ）
- 2 誰もが自分の選んだやり方で学ぶことができるように、多様な学びの入り口を設けます。（多様な選択肢）
- 3 誰もが自由に参加し関わることで、互いの違いを認め合える、地域に開かれたインクルーシブな場をつくりまします。（包摂・共生）
- 4 誰もが危険にさらされることなく、安心して過ごせるように、安全な環境づくりに努めます。（安心・安全）
- 5 誰もが楽しみながら自分の世界や可能性を広げられるよう、ワクワクするような学びを提供します。（エンジョイメント）

13 リニューアル（常設展示更新）

2024年度、2026年度の2か年にわたって実施する展示更新事業に向けてプロジェクトチームを結成し、設置者（浜松市 市民部 創造都市・文化振興課）をはじめ、科学館スタッフ、協力者等を交えチーム横断的に取り組んでいます。

ボランティアや運営委員会委員、市民団体など幅広い方々に情報を開示して展示製作の過程への参加を求めると同時に、DE&Iを推進し、開かれたプロセスによる新しい学びの価値創造を目指します。2026年度は、第二期リニューアルの実施設計及び改修工事を行い、3月に一般公開します。

13-1. 年間予定

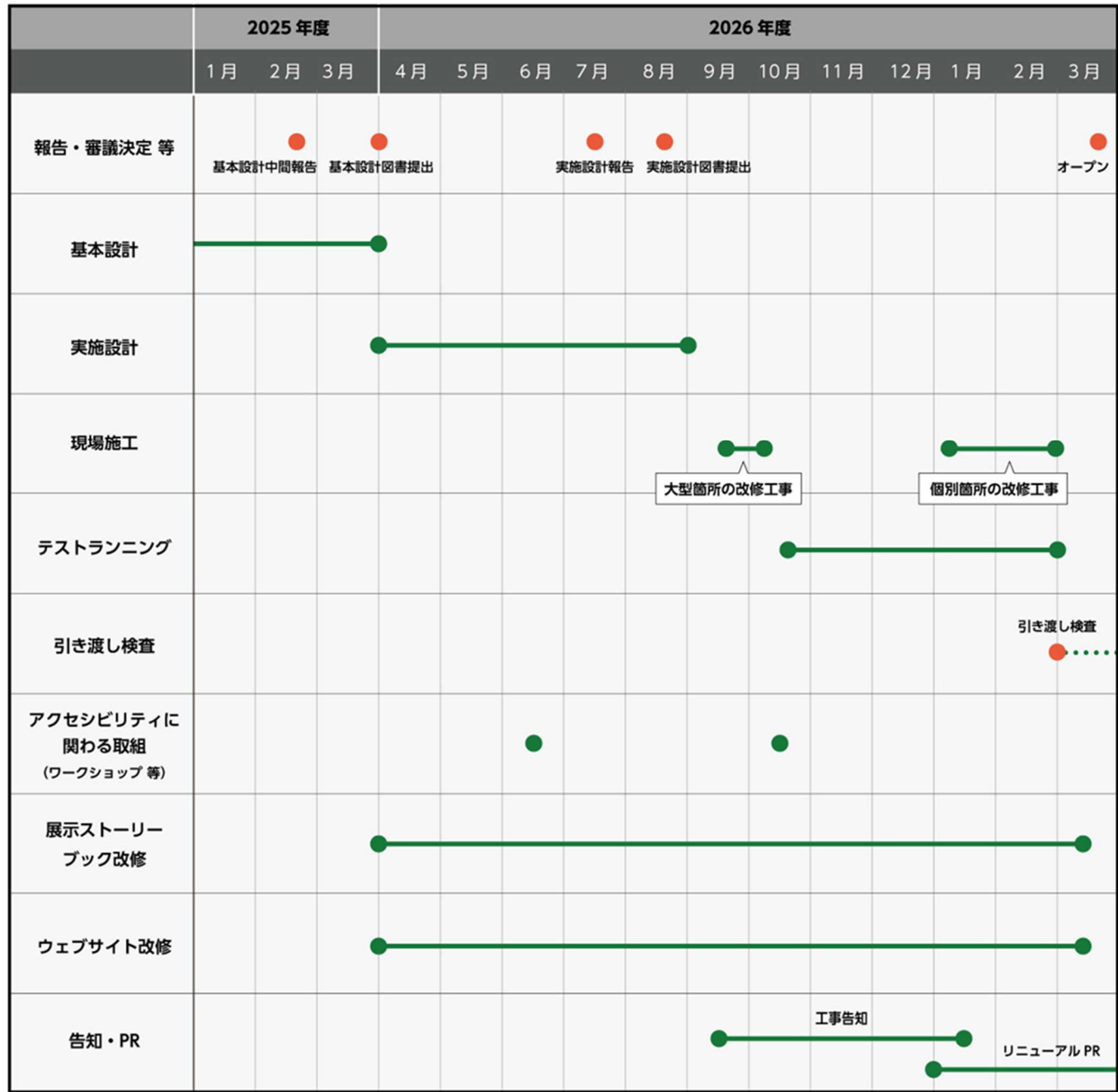
時 期	内 容
8月	実施設計図書の提出
9月	大型箇所の改修工事
12月～2月	個別箇所の改修工事
3月下旬（予定）	第二期リニューアルオープン
通期	・ウェブサイトの一部改修 ・展示ストーリーブックの再編集に関わる取り組み ・アクセシビリティ改善に関わる取り組み ・リニューアルに係る広報・PR

13-2. 事業スキーム

名称	浜松科学館 展示リニューアル2024/2026
事業期間	2024 年度（第一期） 2026 年度（第二期）
事業予算	第 1 期 48,999,500 円 第 2 期 50,000,500 円（いずれも消費税込金額） 協定書第 31 条第 4 項及び第 5 項の規定に基づき、業務完了検査後、展示更新に関する指定管理料として浜松市が指定管理者に支払う。
事業スキーム	1 事業形態 DBO 協定書に基づく指定管理業務の期間内事業として実施 2 目的 「各科学分野の進展や最新の科学的知見、展示協力企業の持つ科学技術の状況を鑑み、指定管理期間を通じて常設展示数の 1 割程度（企業協力展示を除く）を目安に計画的に更新していくものとする。」（運營業務に関する要求水準書 40 頁 抜粋）

13-3.業務工程

●浜松科学館常設展示更新事業スケジュール表（第二期）



※検査完了後、翌年度（令和 9 年度）上半期に指定管理者が展示評価を行い、検証、改良等を行う。

Ⅲ 経営管理

1 開館日・開館時間

2026年度の休館日及び開館時間を以下のとおりとします。今年度は、開館40周年記念日の5月1日（金）と7月1日（水）の市制記念日に合わせて常設展入館料を無料にします。（国際博物館の日の5月18日は休館日）

- 開館日数 2026年4月1日～2027年3月31日のうち314日
- 休館日数 2026年4月1日～2027年3月31日のうち51日
- 開館時間 9:30～17:00（7月20日～8月31日 9:30～18:00）
※特別な催しを行う際には、開館時間を延長します（毎月1回 第2金曜日「夜の科学館」実施）

休館区分	該当日		休館日数
月曜日・休日の翌日	4月6日、13日、20日 6月1日、8日、15日、22日、29日 8月3日、24日 10月5日、13日、19日、26日 12月7日、14日、21日、28日 2月1日、8日、15日	5月7日、11日、18日、25日 7月6日、13日 9月14日、24日、28日 11月9日、16日、24日、30日 1月12日、18日、25日 3月1日、8日、15日	40日
機器メンテナンス	9月7日、8日、9日、10日、11日 ※4月13日～15日（プラネタリウムのみ休止）		5日
年末年始	12月29日、30日、31日、1月1日、2日、3日		6日

2 利用料金

2-1. 利用料金

浜松科学館条例（昭和61年浜松市条例第30号）に基づき、利用料金を以下の通りに設定します（金額には消費税及び地方消費税を含む）。

- ※70歳以上の方は入場料および観覧料が無料となります。
- ※2番組目の観覧料は、大人200円、中人100円が追加されます。

区分		常設展入場料			常設展入場料+プラネタリウム1回分観覧料 (大型映像1回分観覧料)		
		大人	中人 (高校生)	小人 (中学生以下)	大人	中人 (高校生)	小人 (中学生以下)
通常料金		600円	300円	無料	1,100円	550円	無料
団体料金	浜松市 湖西市	420円	210円	無料	770円	380円	無料
	その他地域	540円	270円	無料	990円	490円	無料

※施設利用年齢（学年）は小学3年生以上。（小学2年生以下の入場及び観覧の際は保護者同伴）

2-2.減免対象者の拡張

従来の減免対象者（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳）に、以下の受給者証等保持者を加えます。（利用料金免除：本人と介護者1人）

- 障害者福祉サービス受給者証（障害者総合支援法）
- 障害児通所支援受給者証（児童福祉法）
- 自立支援医療受給者証（障害者自立支援法）
- 特定医療費（指定難病）受給者証
- 戦傷病者手帳

2-3.その他利用料金

① 特別展

開催規模や内容に応じ、入場料として適正な料金を設定して市に申請します。

② その他の料金

教室やワークショップ等の催しで、材料費や資料費等の実費相当額を参加費（受益者負担分）として徴収します。

③ 年間パスポート

繰り返し利用者の利便性向上ために、購入時から1年間有効の年間パスポートを発行します。

区分	常設展入場料		
	大人	中人（高校生）	小人（中学生以下）
料金（税込）	2,000 円	1,000 円	

2-4.サポーター会費

浜松科学館の活動に賛同いただける法人・団体に科学館の運営を継続的にサポートしていただく制度です。会費は原則として年度単位（1年間）とし、1口 110,000円（消費税10,000円含む）となります（口数に制限はありません）。会費の用途は、特別展・企画展や参加型学習事業の充実、プラネタリウム番組制作等に充て、科学館事業の拡充に資するものとします。会員になると、科学館主催事業である特別展・企画展の内覧会、プラネタリウム番組試写会への招待、ニュースレター「COMPASS」の送付と社名記載、館内社名掲示等の特典があります。

2-5.補助金・助成金の獲得

科学館事業に適用可能な各種助成金・運営補助金を積極的に調査し、適正に申請・獲得することに努めます。

3 年間目標

浜松科学館の健全でバランスの取れた財務運営を進めるために、利用料金等の適切な受益者負担を前提として収支計画を作成し目標を定めます。※詳細は「9 収支計画」参照。

3-1. 目標利用者数

有料ゾーンへの入館者となる常設展示利用者数は、年間17万人を目標とします。

3-2. 利用料金収入

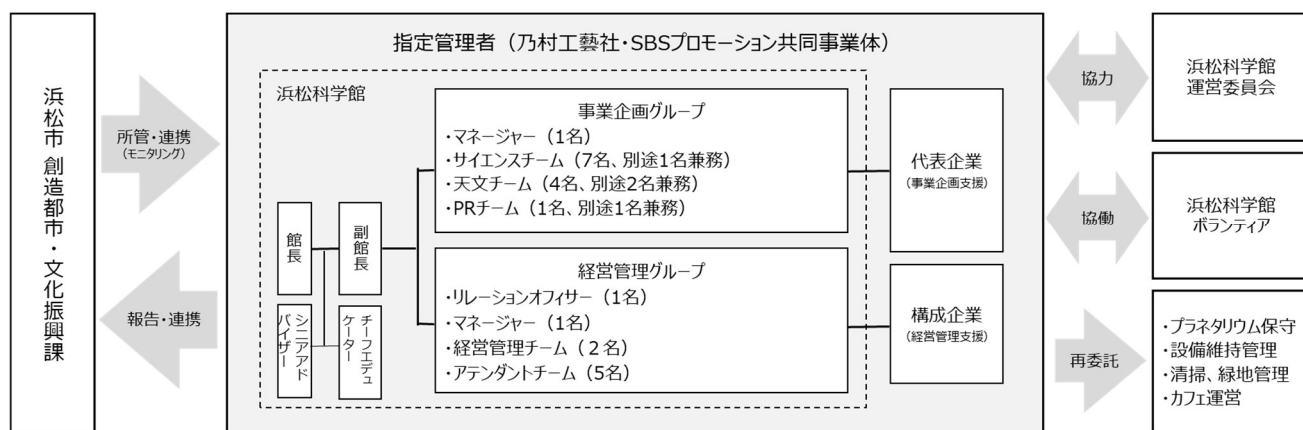
入館料・観覧料及びワークショップ等参加費による利用料金収入は、年間6,544万円を目標とします。

4 管理運営体制

4-1. 運営組織

科学館事業に必要な組織体制を構築し、事業規模に合わせて適正な人員を確保します。学芸系のスタッフには科学・技術や社会教育等の博物館の学びに関する専門知識・技能の保持者を多数そろえて、専門性に根差した質の高い事業を進めます。PRや連携活動、館内の接客や案内業務ではスキルや経験の豊富なスタッフを充て、バックヤードの施設管理や事務等は、協力会社や共同事業体各社と連携して的確な業務を遂行する体制を築きます。（学芸員 7 人、社会教育士 1 人、科学館等勤務経験者 8 人、教員経験者 2 人、行政経験者 2 人等）

◎組織体制図



4-2. 浜松市との緊密な連携

指定管理者制度の枠組みの中で浜松科学館の理念を推進していくために、浜松市との緊密な連絡・報告・協議体制を構築した上で、主体的な事業運営を行います。毎月実施する定例の月次報告会では、館長から浜松市所管課（市民部創造都市・文化振興課・生涯学習担当課長）へ管理運営状況を報告し、共同事業体構成企業担当者、統括責任者以下各責任者が出席して詳細な情報共有と問題・課題の解決にあたります。

4-3. 共同事業体構成企業のバックアップ

共同事業体構成員の企業は、連帯して指定管理業務に責任を負うとともに、必要な経営資源（人材・業務インフラ・資金・情報等）を供給し、各社の得意分野を活かして運営をバックアップします。

4-4. 全国の科学館との人的交流と事業連携

共同事業体代表企業が運営する科学館をはじめ、全国の科学館との人的交流や事業面の連携を図る環境をつくり、運営ノウハウの共有や、スタッフ個々人の専門能力の向上を図ります。

4-5. 職員の教育研修

健全な職場環境を築き、組織としての成長を図るために、科学館・博物館が主催する専門スキル養成研修や個人の能力開発、キャリア形成のための研修、地域研修等の参加を積極的に支援します。

4-6. 職務分掌

館長、副館長（統括責任者）、シニアアドバイザー、チーフエデュケーターの下、経営管理グループ、事業企画グループのマネージャーとリーダー、各スタッフが協力して中核業務を推進します。また、リレーションオフィサーを中心に地元

企業・団体とのリレーション構築を担当し、PRチームと合わせて地域共創と価値発信に努めます。一方、令和8年度より新たにDE&I推進担当を置き、多様な利用者の要望や地域社会の課題に対応した館内の取り組みを強化します。

役職・担当			職務分掌
マネジメント (4名)	館長 1名		職員を統率し、館を代表して渉外・外交を実施、サポーター制度の推進
	副館長 兼 統括責任者 1名 (防火管理者兼務)		館全体の管理運営を総括、市との連絡調整窓口、危機管理責任者
	シニアアドバイザー (SA 非常勤) 1名		コンシェルジュ、地域の関係機関との連携事業補佐、カフェ衛生管理者
	チーフエデュケーター (館長補佐) 1名		学芸・教育系事業の統括、事業経営、人財育成及び連携・協働の促進
経営管理 グループ (9名)	リレーションオフィサー (RO) 1名		関係機関との連携、プロモーション事業統括、サポーター制度事務担当、本社会計事務
	マネジャー 1名		経営管理部門の責任者：人事労務、文書管理、業務報告統括 防災、業務委託管理、施設維持管理
	経営管理チーム (2名)	リーダー未定※	経理、売上集計、庶務、施設貸出、問合せ対応 ※リーダーは当面マネジャーが兼務
		スタッフ 2名	
	アテンダントチーム (5名)	リーダー 1名	総合案内、コンシェルジュ、チケット販売、団体予約管理 ミュージアムショップ運営、みなくるマーケット運営
		副リーダー 1名	
		スタッフ 3名	
事業企画 グループ (13名)	マネジャー 1名 (PR チーム兼務)		事業企画部門の責任者 デザイナーとして科学館デザインワークの統括
	PR チーム (1名、別途 1名兼務)	リーダー 1名	ブランディング・リレーション構築 (広報 PR、COMPASS 製作・発行、 ウェブサイト・SNS 運用、マーケティング、紙媒体制作管理、取材等メディア対応)、地域連携推進、ボランティア活動支援
		スタッフ 1名(兼務)	
	天文チーム (4名、別途 2名兼務)	リーダー 1名	宇宙・天文に係わる教育普及・展示企画・研究活動 (プラネタリウム生解説放映、番組制作、特別放映の企画実施、大型映像番組の選定・運用、機器類の稼働・保守点検、天体観望会、天文講座の実施)、ボランティア活動支援
		スタッフ 3名	
	サイエンスチーム (7名、別途 1名兼務)	リーダー 1名	生物・物理・化学・工学等分野に係わる教育普及 (サイエンスショー、ワークショップ、展示解説、講座等の実施)、特別展示の企画・製作、連携事業の実施、研究活動、展示アイテムの稼働・保守点検、ボランティア活動支援
		副リーダー 1名	
		スタッフ 5名	
DE&I 推進担当		(担当 3名兼務)	社会課題解決へ向けた科学館事業の価値創出 (DE&I の主導)

4-7.浜松科学館運営委員会

科学館事業への助言および協力、事業計画に基づく外部評価を目的として、学識経験者、行政・経済団体職員で構成する浜松科学館運営委員会を設置します。会議は年2回程度実施し、共同事業体が事務局を担います。

役 職	氏 名 (敬称略)	所 属
委員長	遊橋 裕泰	静岡大学 情報学部副学部長 行動情報学科教授
副委員長	村井 良子	(有) プランニング・ラボ 代表取締役
委員	深津 正樹	浜松商工会議所 会員支援部 人材支援課課長
委員	小浜 朋子	静岡文化芸術大学 デザイン学部デザイン学科 教授
委員	加藤 道幸	浜松科学館ボランティア 代表

5 アテンド・チケットイング

5-1.アテンド業務の方針

来館者に迅速かつ適切な利用案内を行い、顧客満足度を高めるよう努めます。業務マニュアルを超えたきめ細かな対応を図り、日々の業務を振り返り、常に改善を図ることで、高いホスピタリティとサービス品質を目指します。

5-2.アテンド業務

科学館 1 階インフォメーションカウンターを拠点に、総合受付、利用案内、チケット発券を行います。令和 6 年度から開始したコンシェルジュ業務は、館内案内に留まらず、近隣の施設や地域の観光まで幅広く対応しており、来館者とのコミュニケーションを通じて利用者ニーズや来館目的などのプロフィール情報も得ています。

業 務	内 容
来館者の誘導、案内、 受付業務	・コンシェルジュ（駐車券サービス・車椅子・ベビーカー等貸出、拾得物・遺失物への対応、情報提供業務を含む。平日は発券窓口等で対応） ・団体の誘導、案内（予約受付、下見対応等含む） ・施設、利用方法、当日のプログラム、スケジュール等の総合案内・各種問合せ対応
発券業務	・常設展、プラネタリウム、年間パスポート等の利用料金の徴収（減免手続や領収書発行等含む） ・上記に伴うチケットの発行、プラネタリウムの残席数の管理
ミュージアムショップでの 販売、接客対応、補充、 商品管理業務	・ミュージアムショップ利用者への商品販売・接客対応 ・商品の補充、在庫の管理（半年に 1 度、棚卸を実施） ・ガチャの商品補充、本体の管理（故障対応等）
情報提供業務	・周辺及び市内の文化施設や関係機関に関する情報提供等

6 施設貸出

6-1.施設貸出業務の方針

浜松市スポーツ・文化施設予約システム（まつぼっくり）による施設の利用申請を受け付け、利用許可に伴い料金を徴収します。利用日の 6 か月前（教育関係団体は 7 カ月前）から申請の受付を行います。

指定管理者によるイベント実施期間等を除く時期に施設の有効活用を図るため、施設の特性や利用方法等についての周知を図り、市民の学習、文化・交流活動等に対応します。

6-2.利用時間・利用料金

①利用可能時間

9:30 から 21:30 までを貸出時間とします。（準備、片付け、原状復帰の時間も含む）

②対象諸室と利用料金

浜松科学館条例（昭和61年3月31日浜松市条例第30号）に基づき、利用料金を以下の通りに設定します。

(単位：円。金額には消費税及び地方消費税を含む)

対象諸室	利用区分		9:30～10:00 及び 21:00～21:30	10:00～21:00 1 時間につき
ホール	教育関係団体	入場料徴収なし	470	940
		入場料徴収あり	940	1,880
	その他	入場料徴収なし	940	1,880
		入場料徴収あり	1,880	3,770
セミナールーム A	教育関係団体	入場料徴収なし	160	320
		入場料徴収あり	320	640
	その他	入場料徴収なし	320	640
		入場料徴収あり	640	1,290
セミナールーム B	教育関係団体	入場料徴収なし	160	320
		入場料徴収あり	320	640
	その他	入場料徴収なし	320	640
		入場料徴収あり	640	1,290

③備品等の貸出について

椅子や机等の備品貸し出しの他、音響、照明、冷暖房装置等の備品は、浜松科学館条例施行規則（平成 18 年 浜松市規則第 120 号）で定められた金額での貸し出しを行います。

7 施設維持管理

7-1.施設維持管理業務の方針

利用者にとって快適かつ機能的な環境を継続的に提供することを目的に、設備機器等の事故、故障を未然に防ぐ「予防保全」の考え方を基本方針として、中長期的な観点からライフサイクルコストの低減にも努めます。公共施設、社会教育施設としての施設特性を踏まえ、その目的の達成を施設維持管理面で支えるため、次の基本的な考え方に基づいて業務を行います。

- 来館者にとっての安心・安全・快適な環境を実現します。
- 当施設の建物、設備、展示装置、その他装置、物品等を適切に管理し、機能及び性能を保ちます。
- 「浜松市役所温暖化対策マネジメントマニュアル」（平成 22 年 4 月制定）に従い、省エネルギー、省資源に努め、環境負荷の低減に配慮した管理を行います。

7-2.施設維持管理業務

安全、安心で快適な施設環境を保つため、設備管理業務、清掃業務、警備業務を行います。

施設維持管理業務では専任の作業員が常駐し、空調・給排水設備等の設備機器の運転、保守及び監視を行います。また、清掃業務については、建物の保全並びに衛生、美観の保持のため、開館中は作業責任者が常駐し利用状況に合わせて作業を行い、夜間等閉館時及び休館日には清掃員による集中清掃を行います。

●施設維持管理業務内容

施設設備機器の仕様や稼働状況に合わせて、適宜、業務内容を調整します。

区分		業務内容
日常管理	設備運転管理業務	・設備運転管理（有資格者、技術者による）
	日常清掃業務	・日常清掃（感染対策を含む）
	警備業務	・機械警備
定期保守	設備保守点検業務	① 特定建築物定期調査報告（年1回） ② 建築設備定期検査報告（年1回） ③ 防火設備定期点検報告（年1回） ④ 昇降機設備保守点検（法定点検及び定期点検:毎月） ⑤ 自動ドア保守点検（年4回） ⑥ 空調設備保守点検（年2回） ⑦ フロン漏洩点検（年4回） ⑧ フィルター清掃（年2回） ⑨ 空調自動制御機器保守点検（年2回） ⑩ 二重吸収式冷凍機保守点検（年4回） ⑪ 消防設備保守点検業務（法定点検及び定期点検） ⑫ 自家用電気工作物保守点検業務（法定点検及び定期点検:毎月） ⑬ 非常用発電機保守点検業務（年1回） ⑭ 監視カメラシステム及び放送設備の保守点検業務（年1回） ⑮ 空気環境測定業務（年6回） ⑯ 受水槽等清掃（年3回） ⑰ 簡易専用水道検査及び水質検査（各年1回以上） ⑱ レジオネラ菌検査（年2回） ⑲ 害虫駆除・鼠防除管理業務（毎月） ⑳ 防火対象物定期点検報告（年1回）
	ホール設備保守点検業務	① 舞台照明保守点検業務（利用状況により適宜実施） ② 音響設備保守点検業務（利用状況により適宜実施）
	定期清掃業務	① 定期清掃（年6回以上） ② ガラス清掃（年2回以上） ③ 屋外緑地の植栽管理（年2回以上） ④ 紙屑危険物搬出業務（週2回以上）

7-3.プラネタリウム機器保守管理業務

プラネタリウム機器を常に正常な状態に保ち、最適な環境の下で安定的に投映を行うことができるようにするために、日常点検を行うとともに、故障やトラブルを未然に防ぐために製造社（五藤光学研究所）による定期保守点検を行います。また、不具合が生じた場合は、速やかに復旧させるために、補修や部品交換等の適切な処置を迅速に行います。

●定期保守点検の実施内容

機器仕様及び機器コンディションに合わせて、適宜、業務内容を調整します。

業務内容	日 程
総合点検（光学式・デジタル式プラネタリウム、デジタルプロジェクター等の予防保全、消耗品交換等）	① 2026年4月13日～4月15日 ② 2026年9月8日～9月10日 2回／年

7-4.展示等保守管理業務

映像機器や展示装置等を常に正常な状態に保ち、故障や破損を未然に防ぐことで、来館者が安全に利用できるように、日常的な点検を行うとともに、適宜、保守点検を行います。また、映像機器や情報機器には耐用年数があることから、機器の特性に応じて機器更新を行います。不具合が生じた場合は、速やかに復旧させるために、補修や部品交換等の適切な処置を迅速に行います。

●保守点検の実施内容

展示仕様及び機器コンディションに合わせて、適宜、業務内容を調整します。

業務内容		頻度
1	映像機器点検作業（映像・音響装置、プロジェクター、PC等調整・動作点検）	適時
2	展示装置点検作業（調整・動作点検）	適時
3	造形物点検作業（目視点検）	適時
4	屋外遊具（パワーアスレチックハウス）点検作業（調整・動作点検）	1回／年
5	霧のステージ点検作業（調整・動作点検）	1回／年

8 安全管理

8-1.安全対策の基本的な考え方

来館者の安全を確保するために、防災総合対策マニュアル、危機管理マニュアルを策定し、施設内での事故・災害・盗難・不正・破壊等を未然に防止します。日常的な施設の施錠開閉及び入退室者の管理を行うとともに、来館者に対する細やかな心配りにより安全を確保し、危険な事態や火災・盗難等の早期発見と拡大防止に努め、災害や事故に強い施設づくりに取り組みます。

また、総合防災訓練（避難誘導訓練：年2回）と防災研修（年1回）を実施し、地震、風水害や火災等の災害非常時に的確な行動と体制を築くことができるよう努めます。

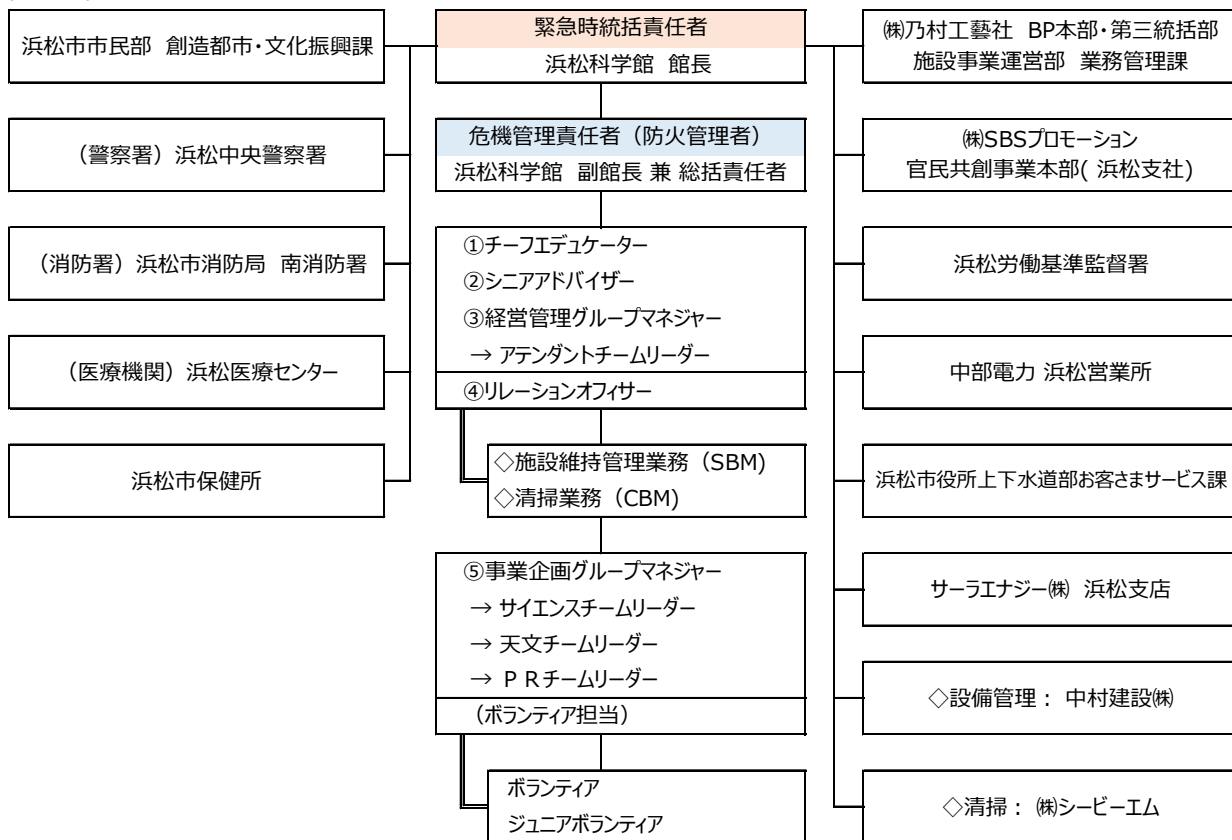
8-2.警備業務

夜間及び休館日等の職員不在時は、自動火災報知機と連動した機械警備業務を実施することで防犯及び防火体制を整えます。また、夜間の施設貸出業務には、適時、警備員を配置し安全管理を実施します。

8-3.緊急時の対応体制

災害等の発生時には危機管理責任者を中心に連絡体制を整え、浜松市の関連部署と連携を密にした指揮命令系統をつくり、利用者の安心安全を第一に、スタッフや関係者の安全確保を含めた対応にあたります。

◎緊急連絡体制



8-4. 防災対策

災害に備えて防災対策を図るとともに、本施設が被災した場合には、直ちに補修等の措置を講じ、施設の機能維持に努めます。

- ① 防災総合対策マニュアルの作成
- ② 防火管理者の選定と「消防計画」の策定
- ③ 自衛消防隊の編成（隊長、副隊長、地区隊長、初期消火、通報連絡、避難誘導係、応急救護等）
- ④ 災害時の参集基準の設定（地震の震度や風水害の警報レベルに応じた避難、休館等の基準の設定）
- ⑤ 「危機管理マニュアル」の作成
- ⑥ アクションカードの整備とスタッフの携行

地震災害や火災等の避難誘導等を「アクションカード」に集約して、緊急時にスタッフが適切な行動を迅速にとることができるようにします。また、別途、マニュアルにて自衛消防隊の編成、緊急連絡網・関係連絡先一覧、緊急退避、閉館と参集基準、近隣防災マップ、緊急時アナウンス例、館内フロアの避難誘導動線と消火器、消火設備配置図等の情報を共有します。

- ⑦ 緊急事態に備えた教育・訓練の実施

- 総合防災訓練（避難訓練等・年2回）
- 設備・機器の取扱い教育（消火器、AED 取り扱い研修を含む）

防災事項や事故情報、他館で発生した事故事例等の防災情報の共有と、職員・スタッフ各員の予防意識の喚起を目的に、浜松市消防局（南消防署）や危機管理課と連携して避難訓練時に実施

- ⑧ 防災研修（年1回）

- ⑨ 文化財の保護・保全に係る消防署との連携

災害発生に備えた文化財（笹ヶ瀬隕石）の取扱い方法の確認及び館内消防設備等の現地調査への協力（文化財保護デーにおける浜松市消防局・南消防署の調査等対応）

9 収支計画

I 収入

(金額は消費税を含む。単位：円)

区 分	内 訳	金額
A 収入合計		263,651,400
1 指定管理業務委託料	指定管理料 管理運営業務分 140,710,900円	140,710,900
	指定管理料 展示更新分 50,000,500円	50,000,500
2 利用料金		65,440,000
入場料・観覧料等	常設展示・プラネタリウム等観覧料	58,540,000
特別展入場料	春、夏の特別展等入場料・企画展ワークショップ参加費	3,600,000
施設貸出使用料	ホール、セミナールーム貸室料	300,000
その他収入（受益者負担金）	参加費・材料費	3,000,000
3 補助金、協賛金等		7,500,000

II 支出

区 分	内 訳	金額
B 支出合計		263,651,400
1 事業運営業務費		52,645,500
常設展示運営費	保守点検、管理経費等	37,700,500
展示更新事業	調査・設計、サイン製作・展示製作施工費	35,900,500
常設展示保守点検費	霧のステージ、パワースレチックハウス保守点検料含む	1,800,000
プラネタリウム運営費	番組制作・借上料、保守点検、管理経費等	7,045,000
特別展等運営費	企画料、製作費等	4,000,000
教育普及事業費	展示消耗品、ミニワーク、サイエンスショー材料費等	3,800,000
ボランティア活動支援費	ボランティア活動支援費	100,000
2 広報業務費		15,730,000
広報費、印刷費	広告媒体費、宣材印刷費等	15,730,000
展示更新広告・アクセシビリティ経費	展示更新広報費、媒体費、Webサイト更新・アクセシビリティ向上経費	9,600,000
広告宣伝・プロモーション費	広報費、広告媒体費	2,000,000
印刷費、発送費	ニュース、ポスター等制作費、紀要制作費、受付諸注意	3,500,000
WEBサイト保守・データ保管料	サイト保守費用、データクラウド保管	630,000
3 施設運営業務費		151,080,000
管理運営人件費	常勤・臨時職員給与等	139,900,000
運営事務費	旅費、消耗品、事務機器等借上料、保険料等	11,180,000
4 施設維持管理業務費		39,509,100
維持管理業務委託費	清掃、設備管理、保守点検等委託料	36,623,100
その他施設管理費	安全管理、修繕料等	2,886,000
5 公租公課		10,000
租税公課費	消費税、法人事業税等	10,000
6 一般管理費		4,676,800
一般管理費	共同事業体業務支援経費、税務負担、展示更新支援経費	4,676,800
収支 (A) - (B)		0

IV 自主事業

1 ミュージアムショップ運営（必須の自主事業）

1-1.事業方針

浜松科学館のオリジナルショップとして、事業活動と一体的に企画・運営し、来館者の科学を楽しむ心と挑戦への意欲を刺激するとともに、来館の思い出や記念になるよう、利用者起点の商品展開を実施します。

また地域のアンテナショップとして、地元浜松の企業の技術や商品紹介、作家の商品販売を行い、来館者以外の方も浜松の技術や創造性に触れることができる場所とします。

1-2.概要

- 営業日数:開館日と同じ
- 営業時間:9:30～17:00
(7月20日から8月31日は18:00まで。イベント等での開館延長時にはその時間に合わせて営業)

1-3.販売物

事業と連動し、商品点数の多種多様化と増大を図りながら、来館者の能動的な学びを支援するグッズを販売し、オリジナル商品も開発します。

- 科学館のテーマと連動したグッズ及び地元企業関連製品の販売
 - 常設展示の5つのテーマ（光、力、音、自然、宇宙）やプラネタリウムに関連した教材、実験・工作材料、書籍、文具などのグッズ
 - 企業展示コーナーに出展する地元企業の技術に触れられる製品
 - 実験や工作のキットや道具、材料 等
- オリジナル商品の開発と販売（下記のような商品を5種類以上品揃え）
 - 地元企業の技術や製品を用いたオリジナル商品（浜松注染手ぬぐい、マグネットカードケース、ブックマーク等）
 - オリジナルデザインのおみやげ（タオルハンカチ、クリアファイル、キーホルダー 等）
 - 科学館キャラクターグッズの商品販売（コンパスくん、まるだしくん、ブッソラちゃん）
- 特別展、企画展及びプラネタリウムの番組と連動した商品の販売
- プリントシール機によるオリジナルシールの販売
- 販路拡大として商業施設等へのイベント出店を行うほか、オンラインショップ、ECサイトでの販売にも努める
- 開館40周年記念グッズ製作（5月1日発売予定）

1-4.収支計画

(税込金額:単位:千円)

月		令和8年度（2026年度）浜松科学館　ミュージアムショップ・ガチャ・シール機　月別収支見込												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
税抜 金額	売上高	1,300	1,350	1,300	2,000	3,500	1,500	950	1,500	1,000	1000	1,300	3,300	20,000
	仕入・諸経費	980	1,015	980	1,470	2,520	1,120	735	1,120	770	770	980	2,380	14,840
	粗利益	320	335	320	530	980	380	215	380	230	230	320	920	5,160

2 カフェ運営（必須の自主事業）

2-1.事業方針

来館者の利便性に配慮した飲食サービスを提供するとともに、サイエンスライブラリー＆カフェとして、図書の閲覧、絵本の読み聞かせなどにも利用できるようにします。カフェを目的として訪れる人も増えるよう、魅力ある店づくりを行います。

2-2.テナント

「Café 一莉」（運営事業者：静岡県浜松市中央区楊子町 208-1 株式会社愛 WORLD）

・営業時間：平日・土日祝日 11:00～16:00（予定） ※「夜の科学館」開催時には夜間営業も実施します。

・定休日：休館日

2-3.メニュー

「食を通して笑顔があふれる空間づくりと地域とのつながりの創造」をコンセプトに、来館者に合わせたメニューを提供し、満足度の向上とリピート率のアップを図ります。

・主なメニュー：日替わり定食、丼物、麺類 等、地産地消メニューを中心にドリンクも各種用意

3 自動販売機の設置管理（必須の自主事業）

清涼飲料水等の販売を目的に自動販売機を設置します。設置台数は6台とし、下記の場所に設置し、併せて容器回収ボックスを設けてリサイクル処分を適切に行います。

設置場所	台数	備 考
サイエンスパーク・キッチンカーエリア	1 台	清涼飲料水等
1 階 通用口・コインロッカー前	2 台	〃
2 階 階段（子どもエレベーター両脇）	2 台	〃
2 階 授乳室入り口	1 台	乳飲料等

4 キッチンカーのフードサービス（任意の自主事業）

繁忙期等を中心に、随時、出店希望者を募集して、屋外で楽しむことのできるフードサービスを提供します。

5 「みらいーら みなくる マーケット」の開催（任意の自主事業）

科科学館周辺地域の賑わい創出と地域の特産物等の PR を目的に、生産者や事業者が対面で商品を紹介し販売する「みらいーら みなくるマーケット」を開催します。

また、夏休み期間には子供が主体となって運営することで、お金リテラシーを学び、人とかかわる力を育む「キッズマーケット」を開催します。

- 実施予定時期と場所：キッズマーケット 7月、8月（エントランスホール）
フードフェス 11月（サイエンスパーク）
クリスマスマーケット 12月（エントランスホール）

6 その他（任意の自主事業）

6-1.無料ゾーンを使った青少年の居場所作り

- ボードゲームレンタルサービス

平日のカフェ終了後のカフェスペース（大テーブル）を利用して、ボードゲームを無償で貸し出し、中・高校生を中心とする青少年の放課後等の居場所づくりを進めます。

6-2.「ほし×こえ」

星や宇宙をコンセプトに作成されたオリジナル・シナリオを用いて、人気の声優がプラネタリウムに登場する特別な朗読会として開催します。これまで2度実施してきましたが、声優ファンを中心に根強いニーズがあることから、プラネタリウムの有効活用として定番化します。